

中江兆民

2018 年本試

問 6 西洋の知識を積極的に取り入れた思想家についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 西周は、アメリカから帰国した後に、同志社英学校を創立して、キリスト教の精神に基づく教育を行った。
- ② 植木枝盛は、ルソーの『社会契約論』を翻訳した『民約訳解』を出版し、日本の実情に即した民権のあり方を説いた。
- ③ 西周は、「門閥制度は親の敵」と述べ、欧米への視察旅行で得た知見をもとに、封建的な秩序や意識を批判した。
- ④ 植木枝盛は、西洋の民権思想をもとに主権在民の必要を説き、人民には政府の専制に対して抵抗する権利があると主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 6	25	④	2

2017 年本試

問 7 次の文章は、近代に入り、西洋の思想や文化に接した思想家についての記述である。□ a □～□ c □に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 □ 26 □

明治維新以後、多くの人々が、欧米諸国へ留学し、様々な思想や文化を日本へ紹介した。イギリスに留学した中村正直は、□ a □と題する翻訳書を著し、個人の自由について、「他人ニ損害ノ及バヌダケハ、^{おの}己ガ意ノママナルベク」などと訳して紹介した。フランスに留学した中江兆民は、帰国後に自由民権論を展開し、民権には人民が自ら勝ち取ったものと、為政者が人々に恵み与えるものがあり、このうち、日本の現状では、まず□ b □民権を守り育てていくべきであると説いた。

欧米の思想や文化の本格的な流入に伴い、日本の伝統や価値観を再評価し、尊重する動きも生まれた。政府の進める欧化政策に反対した□ c □は、対外的には各国の国民に固有なあり方を、対内的には国民の統一を意味する国民主義を主張した。

- ① a 『私の個人主義』 b 恩賜的 c 陸羯南
- ② a 『私の個人主義』 b 恩賜的 c 徳富蘇峰
- ③ a 『私の個人主義』 b 恢復(回復)的 c 陸羯南
- ④ a 『私の個人主義』 b 恢復(回復)的 c 徳富蘇峰
- ⑤ a 『自由之理』 b 恩賜的 c 陸羯南
- ⑥ a 『自由之理』 b 恩賜的 c 徳富蘇峰
- ⑦ a 『自由之理』 b 恢復(回復)的 c 陸羯南
- ⑧ a 『自由之理』 b 恢復(回復)的 c 徳富蘇峰

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問7	26	⑤	3

2012 年本試

問 8 次の文章は中江兆民が、唯物論に基づいて死の受け止め方を述べたものの一部である。その内容の説明として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 20

精神は不滅のものでない、精神の本体源頭たる 軀 体⁽¹⁾こそ、若干⁽²⁾元素の抱合⁽³⁾になれるもので、たとえ解離しても不滅である。……故に人死すれば従前あった所の五尺の 軀⁽¹⁾は解離して、散りぢりばらばらになって、各元素皆不滅である。故に人一旦^{いったん}死すれば、天道の望むべきもなく、地獄の畏^{おそ}るべきもなく、かつまた二度再び人体を受けてこの世に生まれ出るはずはない……。世界は無始無終である、……また無辺無極である……。しかしてその本質は若干数の元素であって、この元素は永久 游 離⁽⁴⁾し、抱合し、解散し、また游離し、抱合し、解散し、かくの如^{ごと}くして一毫⁽⁵⁾も減ずるなく増すなく、即^{すなわ}ち不生不滅である。草木人獣皆これ物の抱合に生じ、解散に死するのである。

(中江兆民『統一年有半』より)

- (1) 軀体・軀:身体
 - (2) 若干:いくつかの
 - (3) 抱合:化合
 - (4) 游離:遊離
 - (5) 一毫:ほんのわずか
- ① 生命体に特有の精神作用とその停止としての死という現象が見られるのは、構成する諸元素の離合集散の仕方が異なるためである。靈魂の不滅を想定したり、死後の安心を期したりする理由はここにある。
- ② 生命体特有の現象に見える生死にしても、構成する諸元素の離合集散の回数が多いために生じるにすぎない。したがって、靈魂の不滅を想定したり、死後の安心を期したりする理由はない。
- ③ 生命体特有の現象に見える生死にしても、構成する諸元素の離合集散作用の一コマにすぎない。したがって、靈魂の不滅を想定したり、死後の安心を期したりする理由はない。
- ④ 生命体に特有の精神作用とその停止としての死という現象が見られるのは、無生物とは構成する諸元素の種類を異にするからである。靈魂の不滅を

想定したり，死後の安心を期したりする理由はここにある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第3問	問8	20	③	3

2008 年追試

問 5 啓蒙思想家の一人である中江兆民に関する説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。

18

- ① 『三酔人経綸問答』を著し，恩賜的民権から立憲君主制を経て ^{かいふく}恢復（回復）的民権に移行すべきだと説いた。
- ② ルソーの『社会契約論』を『民約訳解』として翻訳するなど，急進的なフランス啓蒙思想の移入に努めた。
- ③ 平民社を設立し，『平民新聞』で反戦平和の大切さを訴えるなど，自由民権運動を積極的に推進した。
- ④ 『一年有半』『続一年有半』を著し，神や靈魂の存在を否定するなど，独自の唯物論を述べた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 5	18	③	3

問 5 様々な思想家が自由主義社会を理論的に擁護してきた。中江兆民の自由主義理論の記述として最も適当なものを、次の①～⑦のうちから一つ選べ。 17

- ① 野生生物の世界で、劣弱な個体が淘汰されることによって種の繁栄が維持されるように、人間社会も、自由な競争と個々人の自助的努力に委ねられることによって進歩する。救貧政策は、この進歩を遅らせるだけである。
- ② 人民の権利には、民衆が国家から勝ちとる権利と上から民衆に恵み与えられる権利とがある。為政者が権力を振りかざし、自由権を民衆に返そうとしないから、民衆が動乱を起こして権利を回復しようとするのである。
- ③ 社会契約において各人は、自らの身体とあらゆる力を一般意志の指揮に委ねることによって、自然的自由と引き換えに社会的自由を獲得するだけでなく、人間を自己の真の主人へと高める精神的自由を得ることができる。
- ④ 人々が社会の利益を増大させようと意図する場合よりも、自己利益を追求する方が、より効果的に社会の利益を増大させることがしばしばある。それが実現するためには、完全な自由競争が行われなければならない。
- ⑤ 自己の身体、智慧、情欲、至誠、意思の五つを自在に働かせることは、個人の独立にとり不可欠である。これらを自在に行使しても、他者の同様の自由を妨害しないかぎり非難されることはなく、各人の権利の範囲内に属する。
- ⑥ 生命、自由、身体および労働は各人の所有物であり、このことにつき各人は他者に何も負っていないから、自らの労働の所産も本人の所有物になる。国家の最高権力といえども、本人の同意なしには誰からも所有物を奪えない。
- ⑦ 秩序ある社会においては、各人は、最も広汎な基本的諸自由への平等な権利をもたなければならない。社会経済的な利益が不平等に分配される場合にも、社会で最も不遇な人々の便益が可能なかぎり考慮される必要がある。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	17	②	2

2002 年 追試

問 2 近代の中江兆民の平等観の記述として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

22

- ① 宇宙の根源に「孝」をすえるとともに、天を父とし地を母とした「天地の子」であるかぎり「われも人も人間の形あるほどのものは皆兄弟」だと説いた。
- ② 無神論・無靈魂論を標榜^{ひょうぼう}する自由なる精神をもって、「自由平等これ大義」と述べ、それに反する帝国主義や専制主義を批判した。
- ③ 主客未分の「純粹経験」の立場から、すべての人間には、個として自己を真に実現しうる可能性がある^{と主張した}。
- ④ 人間に対する天地の平等なあり方をふまえ、すべての人が「直耕」する「自然世」の立場から、人為的な「法世」に内在する差別的人間観を批判した。
- ⑤ 人間の^{ないおう}内奥には、他人のうかがい知れない「内部生命」があり、社会的な平等は、その個を抛りどころとして成り立つと説いた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	22	②	3